



設立趣旨「トータルな地域デザインを志援する」:

・持続可能なまちを実現するためには・・・

総合的に地域の実情を把握し、将来像を定め実現に向けて戦略的に事業を展開していくことが必要です。地域デザインとは、持続可能なまちの将来像を描くこと、その実現に向けて戦略的に活動することを指します。

・環境問題は社会を持続不可能にしている問題のひとつです。

地域の未来・志援センターは、環境問題に限らず地域を持続可能なまちに変えていこうとするときの課題全ての志援を目指します。自然環境や生活環境にかかわらず、人口構成(少子高齢化、過疎化)の問題、財政の問題、エネルギーや食料問題なども時には含みます。

・志援とは・・・。

(造語ですが)「志を応援」することです。地域の課題に対し危機感を持ち、何か行おうとしている人、がんばっている人をサポートします。私たちはその人たちのキャタライザー(触媒役)として、実現に向けてお手伝いするものです。

理念:

持続可能な社会に向けた地域づくりを行なう NPO、企業、行政、地域に対して、戦略的、総合的な地域デザイン(環境と経済の両立)のサポートを行い、環境活動の社会化、市民社会の実現を目指し市民ひとりひとりが価値観(意志)を持った持続可能で豊かな暮らしを実現する。

活動指針:

地域の未来・志援センターは、愛知、岐阜、三重における持続可能な地域の市民社会づくりを目指し NPO、企業、行政、地域で活動する志ある人を支援します。

団体活動:

持続可能な地域の市民社会づくりに向け

1. 三セクター(NPO、企業、行政)に対し地域の未来像の政策提言、企画立案を行ないます。
2. 三セクターの問題解決のためのコーディネートを行ないます。
3. 三セクターの活動事例を普遍化し、地域に普及、拡大します。
4. 三セクターに対し経験豊かな NPO スペシャリストの経験、情報、ノウハウを提供します。
5. 企業の環境・社会貢献プログラムの開発と支援を行ないます。
6. NPO の自立に向けたプログラム開発とその実施を行ないます。
7. 市民に対し価値観(意志)を持った持続可能で豊かな暮らしを実現するための普及・啓発を行ないます。
8. 地域の未来を担う人材の育成を行ないます。
9. 活動のための資金調達プログラムの開発・運営をおこないます。
10. 愛知、岐阜、三重における調査、統計、マーケティングを行ないます。

運営体制：

理事長：



萩原喜之（はぎわらよしゆき）

【NPO法人中部リサイクル運動市民の会／理事、NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム／代表理事】

1953年、静岡県生まれ。1980年に「中部リサイクル運動市民の会」を設立。

以来、「誰もが参加できるシステムと場づくり」を活動の基本に、資源のリサイクルシステムやごみ減量プランの提言、グリーン購入の推進など、「地域循環型市民社会」をめざして、さまざまな活動を行っている。とくに最近では、「環境問題の解決には、市民・企業・行政とのコラボレーションが不可欠」と協働事業やネットワークづくりを積極的に展開。愛知万博を機に（特）エコデザイン市民社会フォーラムを設立し「EXPO エコマネー」事業にも取り組んでいる。

副理事長：



井上淳之典（いのうえあきのすけ）

【寺子屋プロジェクト／代表】

1959年名古屋市生まれ。1994年より三重県四日市市にてらくだメソッドやトータルゲーム等の体験型教材を用いた「寺子屋塾」を主宰。セルフデザインスクールを

トに、個別対応とバリアフリー、相互に創発し合う場づくりに努めている。最近は、ファシリテーションやマネジメントをテーマにした講座の出前も多く、行政職員や企業経営者、NPOスタッフ、主婦、学生など多様な人々が参加している。



駒宮博男（こまみやひろお）

【NPO法人地球の未来／理事長、NPO法人地域再生機構／理事長、NPO法人ぎふNPOセンター／理事長、名城大学大学院経営学研究科客員教授】

（ミッション）持続可能社会構築のための研究と実践がミッション。

地域から『カクメイ』を起こそうと企んでいます。中央集権からの脱却、財政の立て直し、地域経済の再生・・・が、どの地域でも緊急課題です。食、エネルギー、公共サービス、税、マンパワー等々の地産地消が今後の鍵と考える。

理事：



出丸朝代（いでまるあさよ）

【NPO法人みえNPOセンター／代表理事、「チャイルドライン24」実施組織／理事、NPO法人みえ防災市民会議／理事、NPO法人市民フォーラム21・NPOセンター／理事】

1997年に全国に先駆け北川知事（当時）がNPO室を設置。初代NPO室長に就任以降7年間、未来社会を見据えた明快な姿勢と語り口、安定感ある行動力でNPO政策先進県としての一時代を築いた。ハートフルかつ大胆率直な言動は常に注目を集め、内閣府国民生活審議会委員も務めた。2006年3月多くのNPO関係者に惜しまれつつ退職。退職後は、子どもの心を受け止めるための相談電話「チャイルドライン24」などで活動。2008年8月にみえNPOセンターを立ち上げる。



井下龍司（いのしたりゆうじ）

【一般財団法人セブン-イレブン記念財団／理事・事務局長】

1986年セブン-イレブン・ジャパン入社、加盟店の経営指導を行うオペレーション本部に20年在籍、2006年より環境をテーマに社会貢献活動を行うセブン-イレブンみどりの基金の理事・事務局長として、セブン-イレブン店頭に寄せられたお客様の募金を環境NPO支援、自然環境保護・保全、環境美化など地域に還元する活動を行っている。



柴垣民雄（しばがきたみお）

【元リコー中部株式会社／CSR担当】

（株）リコー入社後、営業、教育、経営品質等の担当を経て、リコー中部（株）のCSRを担当。販売会社の本業を通したCSR経営を目指し、2002年から地域社会共生型の経営モデル『グリーンプロモーション』を推進。「地域も、会社も、元気にする！」を目標に、市民活動との協働プログラム「エコひいき」や社内の活動充実に向けた「E-ことプロジェクト」など遊び心あふれる施策を、社内外の幅広いステークホルダーを巻き込み展開してきた。

理事：



新海洋子（しんかいようこ）

【環境省中部環境パートナーシップオフィス／チーフプロデューサー】

1967年三重県桑名市生まれ。大学卒業後、財団法人名古屋YWCAに就職。異文化理解・国際理解教育、青少年育成に関する事業を担当。その後、NPO法人中部リサイクル運動市民の会に移り、行政・企業とのパートナーシップによる「リサイクルステーション」「環境教育」「環境コミュニケーション」事業などを担当する。その後、環境教育NPOエコプラットフォーム東海事務局長となり、環境教育の情報機能、持続可能性をキーワードにした教育プログラムの開発、人材育成事業を担う。現在、環境省・中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）のチーフプロデューサー（NPOスタッフ）。持続可能な地域を実現する鍵であろう「環境パートナーシップ」の促進に取り組む。NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議理事。



竹内ゆみ子（たけうちゆみこ）

【NPO法人ソムニード／専務理事・国内事業統括責任者、NPO法人名古屋NGOセンター／理事、JICA-NGO人材研修検討委員会委員長、飛騨高山国際協会理事】

1993年NPO法人ソムニード前進の海外協力団体設立から活動に関わる。デザイン技術を活かし編集、海外活動の広報活動に従事、その後国内事業を担う。飛騨地域を現場とし国内外NGO研修プログラムを開発、人材育成事業を担う。国際協力活動と国内の地域作り活動の共通点を探り、共に課題を解決する仲間のネットワークづくりを展開。07年より、飛騨地域在住アジア人花嫁のサポート事業を始める。



中川恵子（なかがわけいこ）

【NPO法人中部リサイクル運動市民の会／理事、グリーンマップあいち／ディレクター】

1981年、「中部リサイクル運動市民の会」発足直後から活動に参加。以来、現在に至るまで中部リサイクルの活動に従事。会が創刊した情報誌「月刊リサイクルニュース」（1981～1998）、環境総合誌「E's（イーズ）」（1998～2001）の編集長を20年間務め、NPO法人化後は副代表理事。循環型の地域づくりを視野に、グリーンコンシューマー活動や生ごみリサイクル、自然エネルギー普及などのさまざまな活動に携わってきた。現在は、理事としていくつかの環境プロジェクトを携わりつつ、後進のサポート。また「愛・地球博」では県民参加プロジェクトの事務局を担い、閉幕後も愛知県内のグリーンマップ活動のサポートやネットワークづくりにも力を入れている。当会がトヨタ自動車と豊田市との協働事業として実施する「豊森」では事務局長役を担う。



朴恵淑（ぱくけいしゅく）

【三重県地球温暖化防止活動推進センター長、三重大学／副学長・人文学部教授】

専門は環境地域学。主に地球温暖化問題と大気汚染・酸性雨問題に詳しい。国連第13回気候変動枠組み条約締約国会議（COP13・パリ会議）にも参加。「三重県環境県民会議」の代表も務めるほか、レジ袋無料配布の中止を行った、三重県伊勢市のええやんか、マイバック検討会」でも座長を務める。

監事：



鳥居翼（とりいつばさ）

【税理士（名古屋税理士会名古屋中支部所属）、NPO法人地球の未来／監事、NPO法人地域再生機構／監事、NPO法人なかまの家／監事】

1971年生まれ、2005年税理士登録・開業。NPO法人地球の未来監事就任以降、NPO法人の会計・税務の研究を重ね、以降多くのNPO法人に対して「会計・税務」の面から支援を行う。監事としてNPO法人の監査業務、顧問税理士、研究会・セミナーにてNPOの会計・税務の講師等展開。

活動実績：

(1) 地域デザイン事業

- ・「トヨタの森・新環境貢献プログラム（豊森）」の実施
- ・地域デザインスクール開催（連続4期、2年実施：なごや環境大学共有講座）
- ・中学生高校生向け環境学習講座「2050年担い手塾」開催（連続3期、なごや環境大学共有講座）
- ・環境経営モデル化 ステークホルダー会議報告書作成
- ・リコー中部（株）助成事業「エコひいき」運営協力 など

(2) 財源・資源の開発事業

- ・環境市民活動助成金セミナー開催
（「もっと価値を創造する助成へ！」、「地域を活かす助成金セミナー」など）
- ・日独ファンドレイジング・シンポジウム開催
- ・損保ジャパンCSOラーニング制度インターン生受入（人材育成）
- ・三重大学環境NPOインターン制度サポート（人材育成） など

(3) ネットワーク支援事業

- ・『「地域（まち）・環境サミット in 高山 2008」～まちづくり団体協働イベント～』の実施
- ・IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]、日本財団、ダイバーシティ研究所、NPO、他団体との協働によるセミナー開催
（「NPOの資金調達と情報開示セミナー」、「CSRセミナー」、「協働セミナー」など）
- ・IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] との協働による調査
（「都道府県、主要都市におけるNPOとの協働環境に関する調査」など）
- ・東海三県一市グリーン購入キャンペーン協力
- ・コミュニティ・ユース・バンク momo 設立支援 など

(4) 情報提供事業

- ・情報発信基盤整備
- ・GISによる環境活動団体情報活動 など

団体概要

- 正式名：特定非営利活動法人地域の未来・志援センター
- 代表者名：萩原喜之
- 団体設立：2004年12月
- 法人認証：2005年4月
- 住所：名古屋市中区富士見町9-16有信ビル2F
- TEL/FAX：052-331-6141/052-339-5651
- E-mail：office@c-mirai.org
- URL：http://www.c-mirai.org



会員募集、年会費（年/口）【年期間、6月～翌年5月末】

- 正会員（個人：定款上の社員） 5,000円
・地域の未来・志援センターで思いをカタチにしたい人（総会における議決権を有します）
- 賛助会員（個人および団体） 2,000円
・地域の未来・志援センターを支えたい人（資金的な支援の他、機器や資材の提供も受付けます）
- パートナー会員（団体） NPO：1,000円
・3地域、3セクターと協働して事業を行う団体（相互支援や政策提言のネットワークとして協働します）

※会費・寄付金振込先（通信欄に氏名、住所、電話番号をご記入ください）

郵便振替：00800-4-204387 加入者名：地域の未来・志援センター

ゆうちょ銀行振込：〇八九（ゼロハチキユウ）店（089）当座0204387 加入者名：地域の未来・志援センター